



災害と挨拶の話から

間もなく学期末を迎え、長かった2学期が終わります。学期が始まったばかりの頃は、朝から熱中症対策が必要なくらいでしたが、今では手袋やマフラーをして登校する子どもたちもいます。終わってしまえばあっという間ですが、本当に2学期は長いなあと思います。

2学期が終わると冬休みに入り、年末年始を迎えます。春休みや夏休みと違って、社会全体も少しゆったりとした雰囲気に包まれるような気がします。

しかし、今年が能登半島での地震で始まったように、災害は、お正月だからと言ってお休みすることはありません。さらに能登では地震の爪痕が残る中、9月に豪雨災害が起きました。大地震も豪雨もこれまでなかったところにいきなり起きたのですから、南海トラフ大地震が起こると言われている大阪は、いつ大きな災害が起こってもおかしくありません。ところが、人間とは不思議なもので、自分の目の前で起こっていなければ、地続きで起こっていることでも現実感がなかったり、また、時間が経つと自然と意識が薄くなったりしてしまいます。今日が安全だったからと言って、明日も安全だとは限りません。そんな事はわかりきった当たり前の話ですが、普段の生活の中では、意識されることは少ないような気がします。今回は、年の瀬を迎えるにあたり、そうした当たり前について考えてみたいと思います。

今年の夏、林間学習に行った時、宿舎に置いてあった新聞に、大学で災害社会学を専門にしている先生が、次のようなことを書いておられたのが目に留まりました。災害について書かれたコラムなのですが、そこには些細でも大切な挨拶の話が載っていました。

東日本大震災の遺族の方々は、震災の起こった朝に挨拶ができたかどうかはずっと心にトゲのように深く刺さって残っているそうです。「あれが最後になるとわかっていたら話したいことがたくさんあったのに、あの朝なぜ気持ちよく挨拶をしなかったのだろう」と悔やむ方が多くいると書かれていました。また、私が昨年行った大川小学校をとり上げて、ご遺族の方が、朝「行ってらっしゃい」とお子さんを見送ったまま「お帰り」を言えなかったことについて防災教育をされていることも紹介されていました。さらに、震災の10年後に、被災者自身が10年前の災害のことを知らない自分に何を伝えたいかという手紙を募集したところ、津波で亡くなった父親に、その日の朝ごはんの目玉焼きがおいしかったという一言を言っておいてほしいと書いた学生がいることも書かれていました。彼は、日常生活の中でのたった一言をわざわざ伝える必要がないと感じていたことをずっと後悔していたそうです。そして、筆者は最後に、今の日常が明日も続く保証されていない以上、普段の何気ない言葉や感謝の気持ちはその都度伝える必要があり、災害を考えることは、すぐそばにあるありがたさや幸せに気づくことではないかと結んでおられました。

災害に限らず、病気や事故や事件で毎日誰かが突然命を落としています。それがたまたま目

の前で起こっていないだけで、いつ自分や自分の親しい人に起こるかも知れません。そう考えると、当たり前毎日は当たり前ではないのです。だからこそ、今を大切する必要があるのではないでしょうか。もうすぐ、今年が終わります。年末を迎えると、私たちはつい「来年は」とか、「次の年は」とか先々に思いを馳せてしまいがちですが、その前に、これまでを振り返り、今があることに感謝することが大事だと思いました。そして、この記事を読んで、あらためて身近な人との毎日のあいさつなどの関わりを疎かにしないようにしたいと思います。

さて、皆さんの今年一年はいかがでしたか？ 無事に過ごせたことを感謝しつつ、少し早いですが、どうぞよい年をお迎えください。



今年の漢字は何か？

1か月前の話ですが、やっぱり書きたい！

今年の天王寺小学校は、大きな行事が月初めにあるので、それを書こうとすると1か月後となり、ちょっと間延びした感じがしてしまいます。「だったら月の半ばにもう1回出せばいいんじゃない？」と言われそうですが、これ以上は書く時間がないので勘弁してください。

学校だよりも書いてありましたが、11月2日（土）に創立150周年記念行事を行いました。式典には、ご来賓として、末村天王寺区長をはじめ関係諸機関の皆様、地域の皆様や歴代の校長先生方などたくさんの方にお越しいただきましたが、その数なんと50人。皆さんから天王寺小学校が大切にされていることをひしひしと感じました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、みんなでカウントダウンをして記念のアドバルーンを打ち上げました。アドバルーンと言え、昔デパートの屋上でよく見かけましたが、今ではほとんど目にすることがありません。初めはちょっとノスタルジックな催しかないと思いましたが、何の何の。逆に今の子どもたちにとっては新鮮な感じがして、楽しめたようでした。

そして午前11時、卒業式の厳格さと入学式の華やかさが合わさったような程よい緊張感の中、式典が始まりました。実は、式典の全校練習をしたのは、予行の1回きりです。しかし、6年生の立派な喜びの言葉と、全校児童による美しい二部合唱は、ご来賓の方々から大絶賛でした。全校合唱では、予行で歌った時に音のずれを感じて、本番ではピアノを講堂の真ん中付近に移動しました。式典ではあまりないレイアウトなのですが、そうしたこだわりも、素敵なハーモニーを生んだ要因です。

式典が終わると、子どもたちは教室に戻ってジュースとケーキでお祝いです。児童会の放送の合図でジュースの「カンパ〜イ!」。この企画は、150周年の記念に学校では普段できない楽しいことを子どもたちとしよう、という願いで生み出されましたが、それが実現した一コマでした。

記念式典は終わりましたが、PTA プレゼンツのダンスパフォーマンス鑑賞会や、記念誌の作成など150周年記念事業はまだまだ続きます。最後まで楽しい150周年にしたいと思います。